

## 本書を使われるかたがたへ

キリシタン語学は、16世紀から17世紀、カトリックの日本宣教のために作成された各種文献を言語資料として研究する学問分野である。これらの文献を本書ではキリシタン文献と呼ぶが、日本語学上ではキリシタン資料（特に印刷されたものはキリシタン版）とも呼ばれ、日本語史を明らかにするための貴重な資料とされてきた。

さらに近年では、宣教師たちの使用言語であるポルトガル語・スペイン語とラテン語、および日本以外の宣教地域の言語を視野に入れた、いわゆる *Missionary Linguistics*（宣教に伴う言語学）の資料として分析する研究が盛んになり、言語以外の諸研究分野（文学、歴史、思想、美術、音楽など）の進展とも相まって、国際的・学際的な研究がもたらす新しい成果が注目されるようになってきている。キリシタン文献を多角的かつ総体的に捉えることの必要性が、今日、再認識されているといってもよい。

そこで本書は、編者を含む13名の執筆者が、今後の発展が期待できる近年の研究を紹介しながら、一方でできるだけ平易な入門書として、キリシタン語学に関心のある全ての人たちへの研究・教育上のガイドとなることを目指して作られた。より具体的には、研究上の手引きとしてだけでなく、大学生・大学院生に指導する際の手引きとしての利用も想定している。

全体を、概説および定評ある研究成果を紹介する理論編と、個々の文献の扱い方を学ぶ実践編との2部構成とし、相互に参照しながら実際に文献を読み進めることで、各自が研究テーマを見出し、そこからレポートや論文の執筆につなげていけるように構成した。また、キリシタン語学に関わる用語には右下部に\*を付して説明を加えた。説明文は主に共編者の白井が担当したが、網羅的ではないので、日本語学や歴史学など各種分野の辞典類、付録の参考文献も参照していただきたい。さらに、キリシタン文献を実際に読んだり、さらに興味を広げたりするためのコラム・付録を充実させた。そのほか、表記は以下のような原則で行った。

- ・外国の人名・地名などのカタカナ表記は慣例に従った。
- ・欧文原文引用のあとの（ ）は現代日本語訳を表す。
- ・原文がローマ字表記の日本語の場合、[ ] は漢字ひらがな交じりの翻字を表す。

本書の刊行が、キリシタン語学の新たな展開と、分野や言語を超えた研究ネットワーク構築を促すことを心から願っている。

編者  
岸本恵実・白井 純

# 目 次

## 口絵・地図

- 口絵① アンジェリカ図書館所蔵の『ぎやどべかどる』反故紙の束
- 口絵② 高度な印刷技術を支える活字デザイン（カサナテンセ図書館所蔵の『どちりなきりしたん』）
- 口絵③ 製本と用紙にみられる西洋と東洋のちがひ（ライデン大学図書館所蔵の『ヒイデスの導師』）
- 口絵④ インク油分の対面ページへの転写（ライデン大学図書館所蔵の『落葉集』）
- 口絵⑤ 新出資料 日本語で解説された西洋宇宙論（ヘルツォーク・アウグスト図書館所蔵の『スヘラの抜書』）
- 口絵⑥ 相次ぐ新発見資料の報告（ブラジル国立図書館所蔵のリオ本『日葡辞書』）
- 口絵⑦ 新発見資料が描き直すキリシタン版の世界（ユトレヒト大学図書館所蔵の国字本『さるばとるむんぢ』）
- 口絵⑧ 成長するキリシタン版（フランス国立図書館所蔵の『ぎやどべかどる』下巻標題紙）
- 口絵⑨ 扇射よげに見えたれば（大英図書館所蔵の『天草版平家物語』巻第4）
- 口絵⑩ サン・ジョルジュ城からみた現在のリスボンの街並み
- 口絵⑪ ウルバノ大学と、同大学の敷地からみたバチカンのサン・ピエトロ大聖堂
- 口絵⑫ イエズス会ローマ文書館（ARSI）入り口
- 口絵⑬ カサナテンセ図書館（左）とアンジェリカ図書館の表札
- 口絵⑭ ボードレー図書館入り口に展示してある活字印刷機
- 地図① 日本
- 地図② 世界

本書を使われるかたがたへ……………岸本恵実・白井 純 i

## 理 論 編

1. キリシタン文献とその歴史 ……………岸本恵実 2  
 1.1. キリシタン文献とは／1.2. キリシタン文献の歴史〔1.2.1. 日本宣教史／1.2.2. 宣教期前半／1.2.3. 宣教期後半／1.2.4. 禁教期以降〕
2. 研 究 史 ……………白井 純 12  
 2.1. 2つのキリシタン語学／2.2. はじめに読むべき研究書／2.3. キリシタン語学の研究分野〔2.3.1. 音韻研究／2.3.2. 文法研究／2.3.3. 語彙研究／2.3.4. 表記研究／2.3.5. 資料研究／2.3.6. 印刷術研究〕／2.4. 複製・索引・データベース／2.5. 中世語研究との関連
3. キリシタン時代の文法書 ……………黒川茉莉・豊島正之 21  
 3.1. キリシタンの日本語文法に影響のあった文法家／3.2. アルバレス文法の特異点／3.3. アルバレス大文典と小文典／3.4. 小文典の系譜
- 〔コラム〕実務家としてのロドリゲス…………岡美穂子 27
4. 印刷技術 ……………白井 純 28  
 4.1. キリシタン版と活字印刷〔4.1.1. 活字印刷の歴史／4.1.2. 活字印刷の技法〕／4.2. 活字印刷と正書法の関係／4.3. 活字印刷とキリシタン版の関係〔4.3.1. 欧文および日本語ローマ字本／4.3.2. 国字本／4.3.3. 木活字を用いたハイブリッド印刷〕
5. 日本語学の枠組みを超えて ……………岸本恵実 36  
 5.1. 諸言語への視点／5.2. 諸分野への視点
- 〔コラム〕東西コスモロジーの出会いとキリシタン文献 ……………平岡隆二 39

## 実践編

### 6. キリシタン語学書を知る

#### 6.1. 日葡辞書 ―日本語・ポルトガル語の対訳辞書― ……中野 遙 42

6.1.1. 標題紙と本文冒頭／6.1.2. 基本書誌／6.1.3. 解説／6.1.4. 本文より／6.1.5. 今後の研究課題

#### 6.2. 落葉集 ―一定訓に基づく漢字表記の整理― ……白井 純 48

6.2.1. 標題紙と本文冒頭／6.2.2. 基本書誌／6.2.3. 解説／6.2.4. 本文より／6.2.5. 今後の研究課題

#### 6.3. 日本大文典・日本小文典 ―通事ロドリゲスの文法書― ……豊島正之 56

6.3.1. 通事ロドリゲス／6.3.2. 日本大文典 *Arte da língua de Japam* (1604-1608) [6.3.2.1. 標題紙と本文冒頭／6.3.2.2. 基本書誌／6.3.2.3. 構成／6.3.2.4. 内容／6.3.2.5. 特徴的な内容／6.3.2.6. 訳・検索]／6.3.3. 日本小文典 *Arte breve da língua japoã* [6.3.3.1. 標題紙と本文冒頭／6.3.3.2. 基本書誌／6.3.3.3. 構成／6.3.3.4. 内容／6.3.3.5. 特徴的な内容／6.3.3.6. 複製・翻訳・検索]

#### 6.4. 羅葡日辞書 ―ラテン語・ポルトガル語・日本語の対訳辞書― ……岸本恵実 67

6.4.1. 標題紙と本文冒頭／6.4.2. 基本書誌／6.4.3. 解説／6.4.4. 本文より／6.4.5. 今後の研究課題

#### 6.5. 天草版ラテン文典 ―イエズス会標準ラテン文法の日本語対応版― ……黒川茉莉 73

6.5.1. 標題紙と本文冒頭／6.5.2. 基本書誌／6.5.3. アルバレス小文典との関係 [6.5.3.1. アルバレス小文典初版 (1573年・ポルトガル語対応版)／6.5.3.2. ラテン語接続詞 *Quamvis* を伴う接続法の単元の特立／6.5.3.3. 接続法を教授する釈明]／6.5.4. 曲用と小辞／6.5.5. 不定法と準体

#### 6.6. ドミニコ会 コリヤード文典 ―イエズス会とは異なる視点から編まれた文法書―

……………岩澤 克 79

6.6.1. 標題紙と本文冒頭／6.6.2. 基本書誌／6.6.3. 解説／6.6.4. スペイン語写本とラテン語刊本／6.6.5. ロドリゲスの文典との関係／6.6.6. コリヤードの他の著作との関係

[コラム] イエズス会とドミニコ会 ―ふたつのローマ字表記体系の差異が示すもの―

……………山田昇平 86

7. キリシタン文学書・宗教書を知る	
7.1. 日本語ローマ字本(口語)とCHJの使い方 天草版平家物語 —口語訳された『平家物語』—	
.....	川口敦子 87
7.1.1. 標題紙と本文冒頭 / 7.1.2. 基本書誌 / 7.1.3. 解説 / 7.1.4. 『日本語歴史コーパス』(CHJ)の利用 [7.1.4.1. 『日本語歴史コーパス』(CHJ)とは / 7.1.4.2. 『日本語歴史コーパス』(CHJ)の『天草版平家物語』テキスト / 7.1.4.3. 『日本語歴史コーパス』(CHJ)利用の具体例] / 7.1.5. 今後の研究課題	
7.2. 日本語ローマ字本(文語) サントスの御作業 —写本と活字本の比較からみえるもの—	
.....	白井 純 95
7.2.1. 標題紙と本文冒頭・末尾ほか / 7.2.2. 基本書誌 / 7.2.3. 解説 / 7.2.4. 本文より / 7.2.5. 今後の研究課題	
[コラム] キリシタン文献・ローマ字本の分かち書きについて .....	千葉軒士 104
7.3. 日本語国字本(1) どちらなきりしたん —日本で4回出版されたカトリック教義の基本書—	
.....	白井 純 105
7.3.1. 標題紙と本文冒頭 / 7.3.2. 基本書誌 / 7.3.3. 解説 / 7.3.4. 本文より / 7.3.5. 今後の研究課題	
7.4. 日本語国字本(2) ぎやどぺかどる —“退悪修善の道理”を説くキリスト教修徳書—	
.....	折井善果 112
7.4.1. 標題紙と本文冒頭 / 7.4.2. 基本書誌 / 7.4.3. 解説 / 7.4.4. 本文より / 7.4.5. 今後の研究課題	
7.5. 写本 バレト写本 —日本語訳された福音書・聖人伝など— .....	川口敦子 117
7.5.1. 本文冒頭 / 7.5.2. 基本書誌 / 7.5.3. 解説 / 7.5.4. 本文より [7.5.4.1. 表記 / 7.5.4.2. 聖人伝と『サントスの御作業のうち抜書』 / 7.5.4.3. 福音書の翻訳] / 7.5.5. 今後の研究課題	
[コラム] キリシタン語学研究の今後 .....	丸山 徹 124
8. キリシタン版を読んでみる .....	白井 純・岸本恵実 126
8.1. 本文・二次資料の参照 / 8.2. 本文を読む [8.2.1. 翻刻 / 8.2.2. 翻字 / 8.2.3. 注釈] / 8.3. 注釈を付けるための手続き	

## 付 録

キリシタン文献へのアクセス方法	岸本恵実・白井 純 134
参考文献	岸本恵実・白井 純 135
(A) 各キリシタン文献の影印・翻刻・翻字・索引〔刊本／写本〕／(B) キリシタン文献全体に関わる基本参考書	
ポルトガル語・スペイン語・ラテン語の調べ方	豊島正之・折井善果 141
1. 基礎知識／2. 16世紀の特有事情／3. 古語辞典・語源辞典類／4. 参考とすべき文献〔a) 古辞書／b) 現代〕	
仮名・ローマ字綴り対照表	千葉軒士・山田昇平 146
仮名字体一覧	白井 純 148
索引	151
1. 書名／2. 言語／3. 人名／4. 地名／5. 一般	
図版出典一覧	156
<b>【用語説明】</b>	白井 純
カトリック…2／マカオ (Macau、澳門) …7／口語 (話し言葉) …12／漢字音の t 入声…14／整版…15／インクナブラ…28／グーテンベルク聖書…30／丁合符号…31／宣教に伴う言語学 (Missionary Linguistics) …37／キリシタン研究…38／土井忠生…38／ペドロ・ゴメス…40／クリストヴァン・フェレイラ (沢野忠庵) …40／南蛮…40／recto と verso…43／キリシタン版…43／異体字…50／定訓…50／四つ仮名…54／ジョアン・ロドリゲス…56／セルナンセーリエ…56／判型…56／マノエル・アルバレス…57／ラテン語…68／スペイン語・ポルトガル語…68／アレッサンドロ・ヴァリニャーノ…68／ローマ (Roma) …69／ヨセフス・スカリゲル…72／ディエゴ・コリャード…80／アセント記号…80／イエズス会…85／ドミニコ会…85／不干ハビアン…88／耶蘇教叢書…97／養方パウロ・洞院ヴィセンテ…98／ことばの和らげ…98／ハ行転呼音…99／異音…99／濁音前鼻音…102／対校…106／後藤版…106／定家仮名遣い…110／字音仮名遣い…110／仮名用字法 (仮名文字遣) …110／ルイス・デ・グラナダ…114／吉利支丹抄物…115／マノエル・バレット…118／出版許可 (許可状) …118／ウルガタ訳…122／フランシスコ・ザビエル…125／大航海時代…125／アントニオ・ネブリハ…125／開合…127／抄物・狂言…130／切支丹物 (芥川) …131／新村出…131／文献学…142	
執筆者紹介	160

# 理論編

# 1. キリシタン文献とその歴史

## 1.1. キリシタン文献とは

ヨーロッパの人々が非ヨーロッパ圏へ大規模な航海を行った15世紀から17世紀は、日本では「大航海時代」とも呼ばれている。大航海の中心となったのはポルトガル・スペインのカトリック<sup>\*p.125</sup>2国であった。2国の海外進出では、交易・植民活動とともに、教皇庁の支援により宣教活動<sup>\*</sup>が行われた。そのように各地域で宣教活動がなされた結果、宣教の手段として各地域の言語研究が行われた。日本宣教にあたり日本語の研究が実施されたのもその一例である。

キリシタンとは、ポルトガル語<sup>\*p.68</sup> Christão（キリスト教徒の意味）を借用した語であり、16世紀半ば以降日本宣教を行ったカトリックの宣教師・日本人信徒を指す日本史上用語である。本書では、日本国外から宣教に来た日本語を母語としない人々を「宣教師」、日本語を母語とする人々を「日本人」と呼ぶ。キリシタンに関係する文献には以下の通りさまざまな種類があるが、言語資料として主に用いられるのは、キリシタンが16世紀から17世紀にかけて宣教のために作成した(1)(2)である。本書では、これらをキリシタン文献と呼び、また、キリシタン文献を用いた現代の言語研究をキリシタン語学と称する。資料は(1)(2)が中心となるが、比較や文化史的考察を行うために、その他の資料を扱うことも少なくない。巻末の参考文献<sup>→p.135</sup>に、主な文献の複製の情報を記したので、実践編でとりあげられなかった文献にもできるだけ<sup>→p.135</sup>提供していきたい。なお、キリシタン文献はいずれも究極的には信仰に関わるものであるから、「信仰に関する」「直接信仰に関わらない」という区分はあくまでも相対的なものである。

\*カトリック：イエスを救世主と信じるキリスト教のうち、ローマ教皇を頭とするローマ・カトリック教派を指す。16世紀、マルティン・ルターの活動をきっかけにヨーロッパに宗教改革運動が起こり、プロテスタントの諸宗派が生まれることになった。カトリック教会内でもトリエント公会議に象徴される改革運動が行われ、諸修道会による世界宣教を後押しすることになった。

表1 キリシタン文献の分類

作者・対象者	形態	内容（文献の例）
キリシタン (1)	版本	信仰に関するもの（『どちりなきりしたん』『サカラメンタ提要』） 直接信仰に関わらない実用のもの（『天草版平家物語』『日本大文典』）
キリシタン (2)	写本	信仰に関するもの（『バレット写本』『講義要綱』『妙貞問答』） 直接信仰に関わらない実用のもの（『貴理師端往来』バレット『葡羅辞書』）
非キリシタン	版本 写本	（『排耶蘇』『破提字子』） （『切支丹宗門来朝実記』）
17世紀後半以降作られた 二次的文献	版本 写本	（『日仏辞書』、ブチジャン版） （キリシタン版の転写本、潜伏キリシタン資料）

### キリシタン版

上記(1)、すなわち16・17世紀日本宣教のために刊行されたものを広義のキリシタン版とする。広義の場合、国外でイエズス会<sup>\*p.43</sup>が刊行したもの・ドミニコ会<sup>\*p.85</sup>刊行のものも含む。ただし従来、とくに印刷史上、日本においてイエズス会が刊行したものに限定することが多かった。これを狭義



のキリシタン版とする。さらに白井（2015）は、印刷技術の面から、『こんてむつすむんぢ』（1611）をキリシタン版に含めない立場をとる。

版本と写本は形態が異なるだけでなく、版本は複数の製作プロセスを経、会の出版認可を得ている点で公的性質が強いので、先に版本について述べる（断簡は除く）。

文献の作られた目的や対象者を考える上で、形態や材料など書物のかたちとともに、キリシタン文献の場合、言語の種類・文字の種類が重要である。そしてこの書物のかたち・言語・文字の3つは、原則として以下のように対応している（豊島2013:94-95）。

横組み、鳥の子紙、両面印刷、四折または八折

ラテン語（ポルトガル語・スペイン語）、ラテン文字

\*p.68

\*p.68

縦組み、美濃紙、片面印刷（袋綴じ）、美濃本または中本（美濃本の半分）

日本語、国字（漢字と仮名）

さらに判型は、書物の内容とも関わっている。八折よりは四折、また、中本よりは美濃本というように、大きい方が書物の格が上であることは日欧で共通しており、このことはキリシタン版にも当てはまる。

使用言語はラテン語・日本語が主であり、ポルトガル語やスペイン語を含むものもある。ラテン語は当時、カトリック教会の公用語であり、典礼や聖書、公式文書にはラテン語が用いられていたから、キリシタン版にもラテン語で書かれたものが多い。一方、日本宣教を開始し、その後禁教まで宣教の中心であったイエズス会ではポルトガル出身の宣教師が多数を占めていたので、宣教師たちの日常会話は主にポルトガル語で行われていたとみられる。さらに、イエズス会年報の言語はラテン語またはポルトガル語と定められていたので、日本語母語話者の会員もポルトガル語を学んでいたようである。16世紀末ごろから来日した、フランシスコ会・ドミニコ会・アウグスチヌス会の宣教師たちの多くはスペイン語（正確にはカスティーリャ語）を母語としていた。彼らのうち（1）版本・（2）写本を残しているのはドミニコ会であり、ドミニコ会文献ではスペイン語も用いられている。

文字の種類は、ラテン語・ポルトガル語・スペイン語にはラテン文字（いわゆるローマ字）、日本語には国字である漢字・ひらがなとカタカナ（初期版本と多くの写本）が用いられたが、作成目的や対象者によってその組み合わせが変わる場合があった。キリシタン版の例でいえば、現代語で「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン」の意味のラテン語による祈りは、ローマ字本『ドチリナキリシタン』（1592,1600）ではラテン文字であるが、国字本や『おらしよの翻訳』（1600）ではひらがなで印刷されている。国字本でも、『ぎやどべかどる』の聖書（ウルガタ訳）引用のように、ラテン文がラテン文字で印刷されていることもある。

ローマ字本『ドチリナキリシタン』（1600）

In nomine Patris, & Filij, & Spiritus Sancti. Amen.

国字本『どちりなきりしたん』（1600）

いんなうみねばあちりすゑつひいりいゑつすびりつさんちさんちあめん

他に、同じ修養書でも、『コンテムツスムンヂ』（1596）はラテン文字、『こんてむつすむんぢ』（1611）は国字で印刷されたことが知られているが、前者は原著にある聖職者向けの内容を残し、後者はそれらを省略した一般信徒向けの内容になっている。

表2 キリシタン版一覧 (番号は本表での通し番号)

番号	通 称	書 名 (主として標題紙による)	出版地	出版年	大きさ
1	日本のカテキズモ	Catechismus Christianae Fidei	リスボン	1586	四折
2	原マルチノの演説	Oratio Habita A Fara D. Martino	ゴア	1588	八折
3	キリスト教子弟の教育	Christiani Pueri Institutio	マカオ	1588	八折
4	遣欧使節対話録	De Missione Legatorum Iaponensium	マカオ	1590	四折
5	どちりいなきりしたん (前期国字本)	(どちりいな)	(加津佐?)	(1591?)	美濃本
6	サントスの御作業	Sanctos no Gosagueono Vchi Nuqigaqi	加津佐	1591	八折
7	ドチリナキリシタン (前期ローマ字本)	Doctrina	天草	1592	八折
8	ヒイデスの導師	Fides no Dōxi	天草	1592	八折
9	ばうちずもの授けやう	(ばうちずもの授けやう)	(天草?)	(1592?)	美濃本
10	天草版平家物語	Feiqe no Monogatari	天草	1592	八折
11	天草版伊曾保物語 (エソポのハブラス)	Esopo no Fabulas	天草	1593	八折
12	金句集	Qincuxū	天草	1593	八折
13	天草版ラテン文典	De Institutione Grammatica Libri Tres	天草	1594	四折
14	羅葡日辞書	Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum	天草	1595	四折
15	コンテムツスムンヂ (ローマ字本)	Contemptus Mundi	(天草?)	1596	八折
16	心霊修行	Exercitia Spirtualia	天草	1596	八折
17	精神修養の提要	Compendium Spiritualis Doctrinae	(天草?)	1596	八折
18	ナバルスの告解提要	Compendium Manualis Nauarri	(天草?)	1597	八折
19	さるばとるむんぢ	Confessionarium	(長崎?)	1598	中本
20	落葉集	Racuyoxu	(長崎?)	1598	美濃本
21	ぎやどべかどる	Guia do Pecador	(長崎?)	1599	美濃本
22	ドチリナキリシタン (後期ローマ字本)	Doctrina Christan	(長崎?)	1600	八折
23	どちりいなきりしたん (後期国字本)	Doctrina Christam	長崎	1600	美濃本
24	おらしよの翻訳	Doctrinae Christianae rudimenta	長崎	1600	中本
25	朗詠雑筆 (倭漢朗詠集)	Royei Zafit	(長崎?)	1600	美濃本
26	金言集	Aphorismi Confessariorum	(長崎?)	1603	八折
27	日葡辞書	Vocabulario da Lingoa de Iapam	長崎	1603-04	四折
28	日本大文典	Arte da Lingoa de Iapam	長崎	1604-08	四折
29	サカラメンタ提要	Manuale ad Sacramenta Ecclesiae Ministranda	長崎	1605	四折
30	スピリツアル修行	Spiritual Xuguio	長崎	1607	八折
31	フロスクリ (聖教精華)	Flosculi	長崎	1610	四折
32	こんてむつすむんぢ (国字本)	Contemptus Mundi	京都	1610	美濃本
33	ひですの経	Fidesno Quio	長崎	1611	美濃本
34	太平記抜書	(太平記抜書)	?	1611/12?	美濃本
35	日本小文典	Arte Breve da Lingoa Iapoa	マカオ	1620	四折
36	ロザリヨ記録	Rosario Qirocu	マニラ	1622	十二折
37	ロザリヨの経	Rosario no Qio	マニラ	1623	四折
38	日西辞書	Vocabulario de Iapon	マニラ	1630	四折
39	日本文典	Ars Grammaticae Iaponicae Linguae	ローマ	1632	四折
40	懺悔録	Niffon no Cotoba ni yō Confesion	ローマ	1632	四折
41	羅西日辞書	Dictionarium sive Thesauri Linguae Iaponicae Compendium	ローマ	1632	四折

日本語で書かれたものは、用途によって文体の違いがある。信仰に関わるものは当時一般的な書き言葉である和漢混淆文の文体で書かれている。一方、日本語の教科書として作られた『天草版平家物語』『天草版伊曾保物語』『金句集』は京都を中心とした話し言葉(口語)を基調としており、<sup>\*p.12</sup>『日葡辞書』『日本大文典』などにも多くの口語的表現を収めている。語彙の面では、ラテン語・ポルトガル語からの借用語(外来語)が多く収められていることが注目される。用語問題については1.2.2.「宣教期前半」で述べる。

ここまで版本を中心に述べてきたが、キリシタンは多数の写本も残している。それらのうち言語資料として注目されてきたのは、マノエル・バレット<sup>\*p.7</sup>が来日後日本語学習のために書写した自筆資料「バレット写本」、<sup>\*p.118</sup>『天草版平家物語』の「難語句解」である。写本はローマ字綴りなど版本とは異なる言語実態を映しているが、成立事情が明らかでないものが多いことから、やむを得ず個別資料の研究が多くなっている。しかし発見や成立事情の解明は近年も続いており、研究価値が高まっているものがある。バレット自筆『葡羅辞書』、「吉利支丹抄物」、エヴォラ図書館などが所蔵する古屏風の下張り文書などである。<sup>\*p.115</sup>

この他、現存しないものとして、刊本だったか写本だったかも不明の「散逸物語」と呼ばれる一群がある。これらは『物語』『黒船物語』など複数の書名で『日本大文典』や『日葡辞書』の引用文のみで確認されており、まとめて「散逸物語」と呼ばれている。引用を見る限り、多くはラテン文字で表記された口語体の創作物であったようである。

二次的資料も研究の対象となりうる。それらには、非キリシタンによる文献や、17世紀後半以降にキリシタンおよびその継承者によって作成された文献がある。転写の過程で誤解や誤記を含むなど言語資料としての価値は低くなるが、元のキリシタン文献との相違およびその生じた理由を考える時、新たな価値が見出される場合もある。また、非キリシタンによる文献に「伴天連」「たばこ」などの外来語が散見されることは、語史研究の対象となる。

### キリシタン語学書

キリシタン文献の、冒頭p.2表1の(1)(2)の直接信仰に関わらない実用のもののうち、言語の意味や用法の習得を主目的としたものを、本書ではキリシタン語学書と称する。これらは目的により、大きく日本語学習書とラテン語学習書とに分けられる。

また内容から、文法書・辞書と、読本とに分けられる。読本は、序文やタイトルにて言語習得が主と記されている主要なもののみあげた。『天草版平家物語』の目的が「日本の言葉とHistoria」の学習であるように、言語習得のみでないものが多い。また実際、これらの読本が印刷後どのように言語習得に使われたかについても、推測の域を出ない。

日本語を含む語学書の文体は、『羅葡日辞書』を除き、口語が中心である。『日本大文典』のように文語を多く含むものもあるが、主体は口語であり、日本語学習では口語習得が重んじられたことは、ロドリゲスが『日本大文典』の序に述べていることから明らかである。<sup>\*p.56</sup>

#### 日本語学習書

文法書 『日本大文典』、『日本小文典』、コリヤード『日本文典』

辞書 『羅葡日辞書』、『日葡辞書』、「ことばの和らげ」<sup>\*p.80</sup>、『日西辞書』、『羅西日辞書』

読本 『天草版平家物語』、『天草版伊曾保物語』、『金句集』<sup>\*.98</sup>

#### ラテン語学習書

文法書 『天草版ラテン文典』

辞書 『羅葡日辞書』

読本 『キリスト教子弟の教育』、『天正遣欧使節対話録』など

本書では上記のうち、ラテン語読本以外のものはいずれも、**実践編**で一書を取りあげている。詳しくは実践編をご覧ください。ラテン語読本については、**1.2.2. 「宣教期前半」** でふれる。  
→p.7

## 1.2. キリシタン文献の歴史

### 1.2.1. 日本宣教史

前節では現存する「もの」としてのキリシタン文献の枠組みを示した。ここではそれらが生まれた背景を把握し総合的に分析するために、日本宣教史のあらましを語学書中心に述べる。

以下の略年表では禁教と復活という歴史的事件を境に「宣教期」「禁教期」「復活前後」の3期に分けたが、キリシタン文献を論ずる場合は、宣教期をさらに**ヴァリニャーノ**来日前と来日後とで分けるのが理解しやすい。また禁教期以後は二次資料が主となるので、禁教期と復活前後をまとめて扱う。  
\*p.68

#### 略年表

##### 宣教期

- 1549 フランシスコ・ザビエル来日
- 1579 イエズス会巡察師アレックスサンドロ・ヴァリニャーノ来日 \*p.125
- 1580 キリシタンの学校制度組織化、ラテン語教育開始
- 1582 天正遣欧使節の派遣
- 1587 豊臣秀吉による伴天連追放令
- 1590 活字印刷機将来（ヴァリニャーノ再来日・天正遣欧使節帰国）
- 1591 『サントスの御作業』刊行（「ことばの和らげ」付）
- 1594 『天草版ラテン文典』刊行
- 1595 『羅葡日辞書』刊行
- 1596 二十六聖人殉教事件
- 1598 『落葉集』刊行
- 1603 『日葡辞書』本篇刊行
- 1604 『日本大文典』刊行（～1608）

##### 禁教期

- 1612 岡本大八事件、江戸幕府直轄地への禁教令
- 1613 全国禁教令、宣教師らの国外追放開始
- 1620 『日本小文典』マカオにて刊行
- 1630 『日西辞書』マニラにて刊行 \*p.7
- 1632 『日本文典』『羅西日辞書』ローマにて刊行 \*p.69
- 1637 島原の乱（～1638）
- 1638 ポルトガル船入港禁止
- 1706 シドッチ密入国

##### 復活前後

- 1853 ペリー来航
- 1865 プチジャンが浦上キリシタン発見
- 1867 バジェス『日仏辞書』パリにて刊行
- 1870 プチジャン『羅日辞書』ローマにて刊行
- 1873 明治政府キリシタン禁制高札を撤廃
- 1888 サトウ『日本耶蘇会刊行書誌』刊行

\* **マカオ (Macau, 澳門)**: 大航海時代のポルトガルの海外拠点の一つで、聖パウロ教会 (聖ポール天主堂) はイエズス会の日本・中国宣教の足がかりとなった。日本を退去したジョアン・ロドリゲスが仮名活字を含む『日本小文典』(1620刊)をマカオで出版しているのも、キリシタン版を印刷した印刷機と活字が移動したのは確からしいが現存しない。

### 1.2.2. 宣教期前半

イエズス会創始メンバーの1人であるフランシスコ・ザビエルは、インドの後マラッカで布教中、鹿児島出身のアンジロー (ヤジローとも) と出会った。ザビエルはポルトガル語で意思疎通ができるアンジローから日本と日本人に関心を持ち、宣教のための情報収集を始めた。一方、アンジローもゴアにてポルトガル語やキリスト教教理を学び、ザビエル、アンジロー、コスメ・デ・トルレス、ジョアン・フェルナンデスらの一行は1549年8月に鹿児島に到着した。

ザビエルはインドやマラッカなどで、主の祈り、使徒信条などの基本教義を29か条にまとめたドチリナを、各地の言語に訳して用いていたと記録にある。日本についても同様で、来日前からアンジローの助けを借りて日本語のドチリナを準備していた。またさらに詳しい、天地創造からイエス・キリストの生涯などの説明も日本語に翻訳して準備していたという。この極初期の活動については岸野(1998)が参考になる。

#### 用語について

教義をどのような用語を使って説明するかは、宗教の種類、時代、地域、言語の種類を問わず、常に本質的な問題である。16世紀、カトリックの日本宣教の場合も同じ問題があった。用語問題に関する先行研究では、シュールハンマーの独文を要約した土井(1982)が読みやすい。日本では既存の宗教として神道・仏教・儒教の大きく3種があった。そのうち当時最も勢力があり、日本語にも大きな影響を及ぼしていたのは仏教であった。仏教で使われた用語、いわゆる仏教語の一部は、例えば「現世(げんぜ・げんせ)」「退屈」「縁」など、早くに一般語化していたことが知られる。文学や芸能の上でも、仏教の影響は極めて大きなものであった。ザビエルが頼ったアンジローも元仏教徒(おそらく真言宗信徒)であったことから、上に述べたザビエルの教義書2種には仏教で使われる用語が多く含まれていたようである。

用語が日本で大きな問題となったのは、いわゆるザビエルの「大日」問題が契機となった。ザビエルは、キリスト教でいう神(ラテン語Deus)は、アンジローの説明から、宇宙の根源である大日如来に近いものとみなし、日本人にわかりやすいように「大日」と呼んで布教を行った。しかしザビエルが仏教への理解を深めた結果、日本人の誤解を招いていると知ったようで、「大日」使用を廃しラテン語の「デウス」を用いることにした。これが、教義上重要な概念には原語を用いるという原語主義の始まりであった。

とはいえその後も、当時仏教の用語を用いずに新来の宗教を説明することは困難だったようで、このことは1555年バルタザル・ガゴの書簡から明らかである。この書簡で以下の通り行われた改革は今日、ガゴの用語改革とも呼ばれ、これにより「大日」問題以降の原語主義方針が確立されたとみられる。

われわれは長い間にわたって、日本人がその宗派において使った言葉をとって真実を説いてきた。然し偽りの言葉を以て真実を説くと、誤解を招くことに気づいたので、有害と認められる言葉に代えてわれわれの言葉を教えることに改めた。…そういう害毒を与える言葉は

50 語以上あった。今では、それらの言葉の意味とそれらが有害であることに併せてわれらの言葉の意味を説くので、彼らもその相違を認めてくれる。(土井 1982: 40)

この方針を後年になり、あらためて明記しているのが『日本大文典』である。

日本語の発音法に関する論 日本語に缺けた語をわれわれの国語から取入れる方法並にその語を如何に発音すべきかといふ事に就いて

○日本語には、聖なる福音と共に齎<sup>もたら</sup>される幾多の新しい事柄を言ひ表すべき語の幾つかが缺けてゐるので、或いは新しく作り出すか、一然しそれは日本では困難である—或いはわれわれの語から採って来て、それを日本語の発音と一層よく合致するやうに崩して、固有語と同じくするか、その何れかによる必要がある。さうして、<sup>ポルトガル</sup>葡萄牙語は多くの音節の上でも亦発音の上でも、日本語とうまく結びつので、さういふ名詞は<sup>ラテン</sup>拉丁語からもいくらか採られたけれども、普通には葡語から採り得るのである。それらの名詞は、デウスや聖者に関するものか、道義に関するものか、その他日本語に欠けてゐる事柄に関するものかである。…

デウスに関するもの

Deus, Trindade, Padre, Filho, Espirito sancto ... (神、三位一体、父なる神、子なる神、聖霊…)

創造物に関するもの

Natura, 又は Natureza, Anjo, Arcanjo, Espirito, ...Inferno, Paraiso, ... (本性、天使、大天使、霊魂…地獄、天国…)

An, dade 等の語尾を有する道義関係の名詞

Tentaçan, Confissan, Contriçan, Satisfaçan, Iustificaçan,... (誘惑、告解、痛悔、贖罪、義化…)

(『日本大文典』邦訳 pp. 642-645)

ただしキリシタン版の中で「色身」「不退」などの仏教でも用いられる用語は少なくない。やむを得ない選択であり妥協と解釈するか、既知の語にキリスト教的意味の付加を試みた積極的選択と解釈するかは、判断が困難な場合が多い。

ポルトガル語やラテン語を借用して用いる場合、キリシタン版国字本など本文が漢字ひらがな交じり文の場合はひらがな、写本など漢字カタカナ交じり文の場合はカタカナで音写された。表記にゆれがあるが、語頭語中の連続子音の間には次に来る母音と同一母音を挿入する(例、Graça を「がらさ」とする)などの原則がある。詳しくは大塚(1996)を見られたい。ただし写本や、版本でも『ひですの経』などでは、「安如」(Anjo 天使の意味)のように漢字をあてる例が見られる。

### 語学書の始まり

文献史料によれば、1560年代のドゥアルテ・ダ・シルヴァ、ジョアン・フェルナンデスによる日本語の文典・辞書が作られたというが(高瀬 2017)、いずれも現存は確認されていない。そのような日本語の文法書・辞書の写本が複数存在し参照されていたことは、『日本大文典』序・『日葡辞書』序からも知られる。

私がこの文典を編纂するに当っては、我々の伴天連の数品が言葉に関して作った数種の覚書で写本によって行はれてゐるものの援助を受けた。その外、色々な点について、日本の言語文字に深い知識を持った数名の日本人から長年にわたって注意され又教へられた事が助けと

## 索引

- 一、本書の用語を書名・言語・人名・地名・一般に分類した。  
 一、章節で主要テーマとして扱っている語句は、ページ数ではなく、章節を太字で表示した。  
 例) 日葡辞書 **6.1**。  
 一、用語説明をした語句は、ページ数を太字で表示した。

## 1. 書名

- 天草版伊曾保物語 (エソポのハプラス) 4, 5, 12,  
 15, 18, 29, 62, 66, 68, 87-90, 98, 102, 104, 128, 136  
 天草版平家物語 口絵 5, 2, 4, 5, 12, 14-16, 18, 29, 30,  
 62, 66, 77, **7.1**, 98, 102, 104, 118, 126, 128, 130, 131,  
 136  
 天草版ラテン文典 4-6, 9, 22, 24, 29, 56, 61, 68, **6.5**,  
 113, 137  
 イルマン・ビセンテの起請文 62  
 韻鏡 62  
 エヴォラ屏風文書 9, 139  
 エソポのハプラス → 天草版伊曾保物語  
 おらしよの翻訳 3, 4, 33, 51, 98, 102, 106, 137  
 カレピヌス 68-72  
 ぎやどべかどる 口絵 1, 口絵 4, 3, 4, 10, 17, 29, 30,  
 32-34, 49-51, 53, 54, 98, 102, 106, 107, 109, 110, **7.4**,  
 128-131, 137, 143, 148  
 貴理師端往来 2, 139  
 切支丹宗門来朝実記 2  
 吉利支丹抄物 5, **115**, 140  
 金句集 4, 5, 18, 62, 87-89, 137  
 愚迷発心集 62  
 黒船物語 5, 62  
 乾坤弁説 39  
 講義要綱 2, 9, 39, 40, 108, 131, 139  
 古今集 62  
 御成敗式目 62  
 こんでむつすむんぢ (国字本) 3, 4, 10, 33, 43, 113,  
 138  
 コンテムツスムンヂ (ローマ字本) 3, 4, 17, 18, 98,  
 102, 113, 131, 137  
 サカラメント提要 2, 4, 29, 56, 58, 137  
 さるばとるむんぢ 口絵 4, 4, 33, 50, 51, 98, 102, 137,  
 148  
 サントスの御作業 4, 6, 10, 14, 15, 17, 18, 32, 47, 53,  
 62, 68, **7.2**, 113, 118, 120, 126, 131, 136, 143  
 実語教 62  
 捷解新語 19  
 スピリツアル修行 4, 10, 17, 18, 102, 131, 138, 143  
 スヘラの抜書 口絵 3, 39  
 聖教初学要理 11  
 聖教精華 → フロスクリ  
 聖書 3, 10, 11, 30, 68, 121, 122  
 精神修養の提要 4, 10, 137  
 節用集 16, 47, 49, 50, 55, 91, 129, 131  
 撰集抄 62  
 太平記 62  
 太平記抜書 4, 10, 33, 34, 51, 102, 118, 131, 138  
 庭訓往来 62  
 天球論 De sphaera 39, 40  
 童子教 62  
 どちらいなきりしたん (前期国字本) 口絵 4, 2, 4,  
 18, 33, 102, **7.3**, 136, 148  
 どちらいなきりしたん (後期国字本) 口絵 1, 2-4, 29,  
 30, 33, 34, 51, 102, **7.3**, 137  
 ドチリナキリシタン (前期ローマ字本) 3, 4, 98,  
 102, 105, 136  
 ドチリナキリシタン (後期ローマ字本) 3, 4, 32,  
 102, 105, 137  
 難語句解 5, 14, 87-89, 91, 102, 118, 126, 129, 131,  
 139  
 南蛮運氣論 39  
 二儀略説 39, 40, 139  
 日仏辞書 2, 6, 11  
 日西辞書 4-6, 43, 139  
 日葡辞書 口絵 3, 4-6, 8-10, 13, 14, 16-18, 29, 31-33,  
 36, 38, 40, **6.1**, 50, 53-56, 71, 72, 96-98, 100-103,  
 107, 108, 110, 114, 127-131, 137, 141, 142  
 日本教会史 15, 38, 56, 139  
 日本小文典 4-7, 10, 15, 22-26, 29, 30, 38, 49, **6.3**, 73-  
 76, 82, 124, 130, 131, 138, 146  
 日本大文典 2, 4-6, 8, 9, 15, 16, 18, 22-24, 30, 32, 38,  
**6.3**, 73, 74, 76, 77, 82, 83, 124, 130, 131, 137, 142,

- 143, 146  
 日本のカテキズモ 4, 9, 32, 33, 43, 108, 136  
 日本文典 (オヤングレン) 10  
 日本文典 (コリヤード) 4-6, 6.6., 139  
 日本文典 (ホフマン) 11  
 日本耶蘇会刊行書誌 6  
 排耶蘇 2  
 ばうちずもの授けやう 4, 33, 102, 136, 148  
 破提字子 2, 88  
 原マルチノの演説 4, 136  
 バレト写本 2, 5, 10, 89, 96-100, 102, 103, 7.5., 139, 146  
 ヒイデスの導師 口絵 2, 4, 10, 17, 18, 98, 102, 104, 108, 113, 114, 131, 136  
 ひですの経 4, 8, 10, 16-18, 29, 33, 34, 51, 102, 106, 108, 113, 114, 131, 138, 143  
 フロスクリ (聖教精華) 4, 118, 138  
 法華経 62  
 発心集 62  
 葡羅辞書 2, 5, 72, 118, 139  
 舞の本 62, 66  
 妙貞問答 2, 38, 88, 98, 139  
 モルテ物語 62  
 耶蘇教叢書 96, 97, 140  
 落葉集 口絵 2, 4, 6, 13, 16, 18, 29, 33, 34, 45, 47, 6.2., 96, 98, 101-103, 110, 113, 127-129, 131, 137  
 羅日辞書 6, 11  
 羅葡日辞書 4-6, 16, 18, 32, 33, 43, 47, 6.4., 131, 137  
 朗詠雑筆 4, 18, 33, 34, 51, 102, 137  
 論語 62  
 倭玉篇 16, 49-51, 54, 129, 131

## 2. 言 語

- アイマラ語 37  
 イタリア語 22, 24, 25, 58, 68, 69, 74, 79, 118, 123  
 カスティーリヤ語 3, 125  
 ギリシア語 122  
 キリリ語 106, 124  
 キンブンドゥ語 106, 124  
 ケチュア語 37  
 コンカニ語 36, 37, 106, 124  
 コンゴ語 37, 106  
 スペイン語 3, 10, 21, 23-26, 36, 37, 56, 58, 60, 61, 68, 69, 74-76, 79, 80, 84, 97, 102, 108, 113-115, 125, 141-145

- 中国語 27, 36  
 トゥビ語 106, 124  
 ナワトル語 37  
 フランス語 22, 24, 25, 68, 69, 74  
 ベトナム語 36  
 ポルトガル語 2, 3, 5, 7-10, 13, 17, 18, 24-27, 30-32, 34, 36, 37, 39, 42-45, 56-58, 61-63, 65-67, 68, 69, 70, 72-78, 80, 83, 84, 86, 89, 97, 98, 101, 102, 105-108, 113, 117-120, 124, 125, 129, 141-145  
 ラテン語 3, 5-11, 18, 22-26, 30, 36, 37, 39, 43-46, 56-58, 60, 61, 64-67, 68, 69-77, 79-81, 83, 84, 86, 108, 113, 117, 118, 122, 124, 129, 141-144  
 ロマンズ語 (ロマンズ諸語) 22, 68

## 3. 人 名

一、ミドルネームを省略し、仮名書き50音順とした。

- クラウディオ・アクアヴィーヴァ Claudio Acquaviva 112  
 芥川龍之介 130, 131  
 マノエル・アルバレス Manoel Alvarez 21-25, 56, 57, 58-61, 65, 73-76, 78  
 アレクサンドロス大王 Alexandros 124  
 アンジロー Anijiro 7, 9, 125  
 イチク・ミゲル 10  
 イブンバットウータ Ibn Baṭṭūṭa 124  
 マルクス・ウァッコ Marcus Terentius Varro 21, 22  
 アレッサンドロ・ヴァリニャーノ Alexandro Valignano 6, 9, 28, 68, 85  
 ヤコブス・デ・ウォラギネ Jacobus de Voragine 97  
 大槻玄沢 11  
 メルキオール・オヤングレン Melchor Oyanguren de Santa Inés 10  
 バルタザル・ガゴ Balthasar Gago 7, 16, 107, 125  
 鹿児島のパルナルド 9  
 フランシスコ・カブラル Francisco Cabral 27  
 ジェロニモ・カルドーズ Jerónimo Cardoso 21-23  
 アンブロジーオ・カレピノ Ambrogio Calepino 68  
 行阿 110  
 マルクス・クインティリアヌス Marcus Fabius Quintilianus 21  
 ヨハネス・グーテンベルク Johannes Gutenberg 28, 30



ルイス・デ・グラナダ Luis de Granada 17, 113,  
114, 115, 143, 144  
契沖 110  
玄奘三蔵 124  
後藤宗印 33, 106  
ペドロ・ゴメス Pedro Gómez 9, 10, 39, 40  
ディエゴ・コリヤード Diego Collado 5, 10, 22, 23,  
69, 6.6., 80, 86, 125  
アーネスト・サトウ Ernest Satow 6  
フランシスコ・ザビエル Francisco Xavier 6, 7, 27,  
85, 124, 125  
沢野忠庵 → クリストヴァン・フェレイラ  
マルコス・ジョルジュ Marcos Jorge 105, 106  
ドゥアルテ・ダ・シルヴァ Duarte da Silva 8  
新村出 13, 130, 131  
ヨセフス・スカリゲル Joseph Scaliger 21, 23, 72  
ルイス・デ・セルケイラ Luis de Cerqueira 58  
ディオメデス・グラマティカス Diomedes  
Grammaticus 21  
鄭斗源 27  
ヨハンネス・デスパウテリウス Johannes  
Despauterius 21-23  
聖テレサ Teresa de Ávila 144  
土井忠生 7, 8, 12, 13, 15-17, 31, 38, 43, 44, 55, 57,  
58, 60-62, 89, 97, 99, 100, 107, 112, 117, 120  
洞院ヴィセンテ Toin Vicente 10, 96, 97, 98  
コンスタンチノ・ドゥラード Constantino Dourado  
10  
徳川家康 27, 56  
アエリウス・ドナトゥス Aelius Donatus 21  
豊臣秀吉 6, 10, 27, 56  
コスメ・デ・トルレス Cosme de Torres 7  
那須与一 口絵 5, 126, 127  
アントニオ・ネブリハ Antonio Nebrija 21-23, 60,  
65, 125  
聖パウロ Paulo 7, 9, 15, 120, 121, 124  
レオン・パジェス Léon Pagès 6, 10  
長谷川左兵衛(藤広) 27  
不干ハビアン Fucan Fabian 10, 38, 87, 88, 89  
原田アントニオ Farada Antonio 33, 43  
原マルチノ Fara Martino 4, 9, 112, 113, 136  
マノエル・バレット Manoel Barreto 2, 5, 10, 14, 72,  
87, 89, 97, 99, 101, 7.5., 118, 126, 129, 139  
ジョアン・デ・バロス João de Barros 18  
アロンソ・デ・ビジェガス Alonso de Villegas 143  
ジョアン・フェルナンデス Juan Fernandez 7, 8

クリストヴァン・フェレイラ(沢野忠庵) Christóvão  
Ferreira 39, 40  
藤田季荘 98  
ベルナルド・プチジャン Bernard Thadée Petitjean  
2, 6, 11, 67  
プリスキアヌス・カエサリエンシス Priscianus  
Caesariensis 21, 23  
ルイス・フロイス Luis Frois 27  
ジョヴァンニ・ペッシエ Giovanni Battista Pesce  
10  
ヨハン・ヨーゼフ・ホフマン Johann Joseph  
Hoffmann 11  
アルドゥス・マステイウス Aldo Manuzio 21-23  
村上直次郎 97, 98  
村山等安 27  
ディオゴ・デ・メスキータ Diogo de Mesquita  
112  
ペドロ・モレホン Pedro Morejón 39  
養方パウロ Yofó Paulo 10, 96, 97, 98  
ペロ・ラモン Pedro Ramon 10, 112  
エルネスト・ランドレス Ernest Augustin Xavier Clerc  
de Landresse 10  
李栄後 27  
ペドロ・デ・リバデネイラ Pedro de Ribadeneira  
144  
マルティン・ルター Martin Luther 2  
ルイス・デ・レオン Luis de León 144  
ガスバル・ロアルテ Gaspar Loarte 143  
ジョアン・ロドリゲス João Rodriguez Tçuzu(Tçûzu)  
5, 7, 10, 15, 16, 18, 22-24, 27, 30, 38, 54, 6.3.,  
56, 77, 78, 80, 82-84, 124, 125, 130, 142, 143, 146  
ジョルジュ・デ・ロヨラ Jorge de Loyola 10, 33

#### 4. 地名

一、キリシタン版以外の刊行地、キリシタン版の現在  
所蔵機関を表す地名は除いた。

天草 4, 39, 43, 56, 60, 61, 67, 73, 87, 88, 136, 137  
アントウェルペン Antwerpen 28, 32  
茨木 115  
ヴェネチア Venezia 28  
エチオピア Ethiopia 37  
加津佐 4, 43, 96, 98, 118  
ケルン Köln 28  
ゴア Goa 4, 7, 9, 124

コインブラ Coimbra 9, 39, 40, 57, 74, 141  
 サラマンカ Salamanca 21, 113, 114, 125, 141  
 セルナンセーリエ Sernancelhe 56, 142  
 長崎 4, 27, 42, 43, 49, 57, 58, 97, 105, 106, 112, 118,  
 130, 137, 138  
 パリ Paris 6, 11, 28, 59, 60  
 マインツ Mainz 28, 30  
 マカオ Macau (澳門) 4, 6, 7, 9, 10, 27, 28, 43, 56,  
 63, 135, 138  
 マラッカ Melaka 7, 125  
 リスボン Lisboa 口絵 5, 4, 24, 32, 33, 43, 74, 106,  
 113, 114, 118, 143  
 ローマ Roma 2, 4, 6, 22, 24, 28, 68, 69, 74, 79, 80,  
 85, 86, 139

## 5. 一 般

ão/am 142  
 ca/qua 13  
 çã/sã 142  
 e/i 142  
 ji/gi 13, 54  
 õ 100  
 õ/ô 76, 86, 98, 127  
 o/u 142, 143  
 recto 43, 118  
 verso 43, 118  
 vo/uo 13, 99, 100  
 ye 99, 100  
 アウグスチヌス会 3, 37, 85, 138  
 アクセント 58, 59, 61, 80, 83, 84, 86, 110, 120  
 アセント 59, 61, 80, 83  
 アセント記号 80, 83, 86, 120  
 イエズス会 口絵 2, 口絵 6, 2, 3, 6, 7, 9, 10, 12, 16,  
 17, 21, 22, 24, 27, 28, 31, 33, 37-40, 42, 43, 48, 49,  
 56-58, 62, 63, 65, 66, 68, 69, 73, 80, 85, 86, 88, 89,  
 98, 104, 106, 107, 110, 112, 113, 115, 118, 120, 125,  
 134-136, 141, 146  
 異音 99  
 異体字 34, 49, 50, 98, 100, 127, 146  
 イタリアック 32-34, 42, 44, 57, 58, 63, 73, 79, 80  
 いろは 49, 56  
 印欧語 124  
 インクナブラ 28  
 ウルガタ訳 3, 10, 30, 68, 122  
 江戸時代 14, 39, 40, 54, 93, 110, 142

音韻 12-15, 17, 58, 97-101, 109, 110, 120, 127, 142,  
 143  
 音素 54, 99, 101, 127  
 音便 128  
 開音節 14, 100  
 開合 13, 14, 17, 54, 59, 80, 97, 100, 101, 120, 127  
 書き言葉 → 文語  
 格 15, 16, 24, 56, 58-62, 76, 78, 83, 101, 130, 141, 143  
 カクレキリシタン 11  
 活用 15, 22, 24, 54, 55, 58-61, 64, 65, 73, 82, 83, 86,  
 92, 93, 128, 141, 143  
 カテキズモ 105, 106  
 カトリック 2, 3, 7, 10-12, 17, 30, 36, 68, 69, 79, 85,  
 108, 113, 118, 122, 124, 125  
 仮名遣い 14, 31, 47, 53, 55, 91, 99, 109, 110, 127  
 字音—— → 字音仮名遣い  
 定家—— → 定家仮名遣い  
 仮名文字遣 → 仮名用字法  
 仮名用字法 (仮名文字遣) 109, 110  
 冠詞 60, 61, 78, 142  
 漢字音の t 入声 → 入声音  
 狂言 12, 62, 93, 128, 130, 131  
 キリシタン研究 37, 38  
 キリシタン版 43  
 切支丹物 (芥川) 130, 131  
 キリシタン用語 11, 16, 107  
 キリスト教 2, 4, 6-10, 16, 36-40, 71, 84, 88, 98, 105-  
 108, 113, 124, 125, 131, 136, 148  
 グーテンベルク聖書 30  
 訓釈 45, 46, 50, 53, 55, 101-103  
 形態素 53, 97, 98, 101-103, 108, 109  
 口語 (話し言葉) 5, 12, 15, 16, 26, 43, 59, 66, 68, 83,  
 7.1., 128, 130, 131  
 合拗音 13, 100  
 古活字版 43  
 国字本 口絵 1, 口絵 4, 3, 4, 8, 16, 17, 28-30, 32-34,  
 49-54, 91, 98, 7.3., 7.4., 129, 136-138, 148  
 語釈 16, 36, 40, 44-47, 53, 65, 69, 71, 97, 102, 108,  
 119, 127, 129, 130  
 後藤版 33, 106, 107, 108  
 ことばの和らげ 5, 6, 17, 47, 53, 87-89, 91, 96, 97,  
 98, 101, 102, 131  
 コレジオ 9, 10, 39, 40, 58, 63, 88, 98, 118  
 子音 8, 14, 22, 33, 64, 65, 83, 84, 86, 98-100, 120  
 字音仮名遣い 109, 110  
 四声 59

- 出版許可（許可状） 31, 42, 44, 57, **118**  
 抄物 12, 19, 128, **130**, 131  
 常用漢字 45, 50, 54  
 唇歯摩擦音 98, 100  
 正書法 13-15, 18, 30, 31, 62, 86, 142  
 整版 14, **15**  
 接続法 22-26, 61, 62, 64, 65, 74-76, 141  
 宣教に伴う言語学（Missionary Linguistics） 12,  
 18, **37**, 38, 56, 62, 135  
 対校 105, **106**  
 大航海時代 2, 7, 12, 13, 18, 36, 85, **125**  
 大日 7, 16, 36, 107, 125  
 対訳ラテン語語彙集 18, 44, 69, 72, 129  
 濁音前鼻音 → 鼻音  
 注釈 15, 16, 57, 63, 96, 106, 108, 126-128, 130, 131  
 丁合符号 **31**  
 朝鮮資料 12, 19  
 直音 13, 100  
 定家仮名遣い 53, 109, **110**  
 定訓 45, **6.2.**, **50**, 103, 128, 129  
 天正遣欧使節 口絵 5, 6, 28, 31-33, 43, 68  
 同音異義語 45, 101, 108  
 ドミニコ会 2, 3, 10, 12, 37, 43, 68, 79, 80, **85**, 86, 99,  
 100, 113, 114, 146  
 トリエント公会議 2, 68, 113, 122  
 鳥の子 3, 29  
 南蛮 13, 27, 39, **40**, 131  
 入声音（漢字音の t 入声） **14**, 97, 100, 147  
 日本語歴史コーパス 18, 88-94, 126, 128, 131  
 ハ行 84, 98-100  
 ハ行転呼音 98, **99**, 128  
 話し言葉 → 口語  
 判型 3, 23, 24, 28, 42, 49, **56**, 57, 63, 67, 73, 79, 87,  
 96, 105, 112, 117  
 鼻音（濁音前鼻音） 83, 86, 99, 100, **102**, 120  
 品詞 58-61, 78, 91-93  
 フェロ・フスゴ Fuero Juzgo 143  
 福音書 10, 121, 122  
 仏教 7, 8, 17, 38, 68, 88, 107, 108, 125  
 不定法 59, 65, 76, 77  
 フランシスコ会 3, 37, 85  
 プロクラドール 27, 56  
 プロテスタント 2, 11, 72, 85, 124  
 文献学 12, 19, 37, 141, **142**  
 文語（書き言葉） 5, 12, 15, 16, 22, 58, 87, 90, 92, **7.2.**,  
 117, 128  
 変体仮名 108, 148  
 母音 8, 14, 33, 83, 86, 102  
 方言 43, 56, 58, 68, 72, 143  
 翻刻 15, 38, 63, 89, 90, 98, 113, 114, 119, 126, 127,  
 135-140, 143, 148, 149  
 翻字 54, 88-92, 96, 118, 120, 122, 126, 127, 129, 135,  
 138, 139  
 Missionary Linguistics → 宣教に伴う言語学  
 室町時代 14, 54, 88-90, 92, 93, 115, 127, 131  
 謡曲 14, 61, 62  
 四つ仮名 13, **54**, 97, 100, 120  
 両唇摩擦音 98, 100  
 ルネサンス 124  
 連歌 59, 60  
 連綿 33, 108, 109, 148  
 ローマ字本 3, 4, 10, 14, 17, 18, 30, 31, 53, 54, 86,  
**7.1.**, **7.2.**, 104, 105, 110, 126, 136, 137  
 ローマン体 28, 31-33, 57, 58, 63, 80  
 分かち書き 30, 31, 98, 100, 104, 109, 127

## 執筆者紹介

### 【編者】

岸本 恵実 (きしもと えみ)

白井 純 (しらい じゅん)

岩澤 克 (いわさわ かつみ) 青山学院高等部非常勤講師。日本語音韻史。〔主な著作〕「図書寮本『類聚名義抄』における和訓一引用方法とアクセント注記について」『訓点語と訓点資料』134、2015年、pp.23-38 / 「コリヤード『羅西日辞書』続篇の成立過程とその出典について」『上智大学国文学論集』50、2017年、pp.160-146 / 「ドミニコ会文献のアクセント注記と母音単独音節“o”の存在について」『日本近代語研究』6、2017年、pp.横271-290

岡 美穂子 (おか みほこ) 東京大学大学院情報学環准教授(史料編纂所兼任)。海域アジア史、日本キリシタン史。〔主な著作〕『商人と宣教師—南蛮貿易の世界—』東京大学出版会、2010年 / *A Maritime History of East Asia*, APP & Kyoto University Press (co-edition with Masashi Haneda), 2019 / *The Namban Trade: merchants and missionaries*, Brill, 2021

折井 善果 (おりい よしみ) 慶應義塾大学法学部教授。スペイン文献学、思想史。〔主な著作〕*The Dispersion of Jesuit Books Printed in Japan: Trends in Bibliographical Research and in Intellectual History. Journal of Jesuit Studies* (Brill) 2 (2) pp.189-207, 2015 / *Cruces y Áncoras: La Influencia de Japón y España en un Siglo de Oro Global*. Madrid: ABADA Editores (co-edition with María Jesús Zamora Calvo), 2020 / 「奇跡」と適応—イエズス会宣教師による「理性」概念の形成と日本—(齋藤晃編『宣教と適応—グローバル・ミッションの近世—』名古屋大学出版会、2020年)

川口 敦子 (かわぐち あつこ) 三重大学人文学部教授。キリシタン手稿類を中心とする表記・音韻の研究。〔主な著作〕「バレット写本の「四つがな」表記から」『国語学』51-3、2000年、pp.1-15 / 『『日葡辞書提要』索引』清文堂出版、2012年 / 「キリシタン手稿類のヅ表記とその周辺」『国語国文』84-4、2015年、pp.115-129

黒川 茉莉 (くろかわ まり) 上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程、日本学術振興会特別研究員DC2。キリシタン時代の語学書の研究。〔主な著作〕「ロドリゲス『日本大文典』の品詞 *particula* と *artigo* に就いて」『訓点語と訓点資料』145、2020年、pp.81-63 / 「イエズス会日本語文法の「格」の由来」『上智大学国文学論集』54、2021年、pp.122-104

千葉 軒士 (ちば たかし) 中部大学現代教育学部講師。日本語史。〔主な著作〕「キリシタン・ローマ字文献の撥音表記について」『訓点語と訓点資料』131、2013年、pp.98-87

豊島 正之 (とよしま まさゆき) 上智大学文学部教授。キリシタン文献の文献学的研究、宣教に伴う言語学。〔主な著作〕『キリシタンと出版』八木書店、2013年 / 「キリシタン文献の典拠問題」『国語と国文学』96-5、2019年、pp.74-87

中野 遙 (なかの はるか) 上智大学グローバル教育センター特任助教(実践女子大学非常勤講師)。『日葡辞書』を中心としたキリシタン版語学辞書の構造・注釈の研究。〔主な著作〕『リオ・デ・ジャネイロ国立図書館蔵日葡辞書』2020年、八木書店(解説担当) / 『キリシタン版日葡辞書の解明』2021年、八木書店

平岡 隆二 (ひらおか りゅうじ) 京都大学人文科学研究所准教授。科学史、東西交流史。〔主な著作〕『南蛮系宇宙論の原典的研究』花書院、2013年 / 「ジュネーブ天儀—17世紀日本の天文模型—」『洋学』26(クリストファー・カレンとの共著)、2019年、pp.49-78

丸山 徹 (まるやま とおる) 南山大学名誉教授。言語学。〔主な著作〕『キリシタン世紀の言語学—大航海時代の語学書—』2020年、八木書店

山田 昇平 (やまだ しょうへい) 奈良大学講師。日本語音韻史・キリシタン語学。〔主な著作〕「言便」名義考『日本語の研究』10-4、2014年、pp.33-47 / 「コリヤードが用いる子音字‘v’のない‘o’‘ö’は何をあらわすか—キリシタンのローマ字表記に対する解釈をめぐって—」『語文』(大阪大学国語国文学会)111、2018年、pp.左1-16 / 「キリシタン・ローマ字文献を中心にみたt入声」『訓点語と訓点資料』147、2021年、pp.1-17

## 【編者】

岸 本 恵 実 (きしもと えみ)

大阪大学大学院文学研究科准教授。キリシタン語学、特に辞書編纂の研究。

[主な著作] 『ヴァチカン図書館蔵 葡日辞書』解説 (京都大学文学部国語学国文学研究室編) 1999年、臨川書店 / 『フランス学士院本 羅葡日対訳辞書』2017年、清文堂出版

白 井 純 (しらい じゅん)

広島大学大学院人間社会科学研究科准教授。キリシタン語学、特に表記論の研究。

[主な著作] 『ひですの経』(折井善果・豊島正之と共著) 2011年、八木書店 / 『リオ・デ・ジャネイロ国立図書館蔵 日葡辞書』(エリザ・タシロと共編) 2020年、八木書店

## キリシタン語学入門

2022年3月25日 初版第一刷発行

定価 (本体 2,500円 + 税)

編 者 岸 本 恵 実  
白 井 純

発 行 所 株式会社 八木書店出版部  
代表 八木乾二  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-8  
電話 03-3291-2969(編集) -6300(FAX)

発 売 元 株式会社 八木書店  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-8  
電話 03-3291-2961(営業) -6300(FAX)  
<https://catalogue.books-yagi.co.jp/>  
E-mail pub@books-yagi.co.jp

ISBN978-4-8406-2245-5

印刷 上毛印刷  
製本 牧製本印刷